

## 第17年度 事業報告のまとめ

「すべての子どもや山科醍醐地域に暮らす方々をつなぎ、ともに育ちあえる環境づくりのための方向をつくる一年となりました。」

地域の多様な関わりとつながりから多くの事業や活動も生まれ、また、これまでの活動もより発展的に広がりをもった一年を受け、さらにつながりを生かしつつ、そこで出会う子ども、家族、地域の住民、ボランティア、そしてスタッフの声や様子、アイデアと、地域や社会が関わる問題を踏まえた事業展開してきました。これまでのご縁からさらに共に事業をしたいという地域からの声も増えており、子どもが人間浴できる環境がまちに増えていく兆しが見え始めています。

35周年の事業のなかでは歴代理事長のトークセッションがありましたが、事業や組織形態のカタチは違えど「ひろばらしさ」には多くの共通点があり、あらためて原点を確認できた1年でもありました。さらに理事会や事務局を中心に今後の山科醍醐こどものひろばの中長期のビジョンを描くための議論を重ねてきました。大きな方向性は事業計画でもお示しますが、そこをたたき台に、さらなる事業計画を皆様と作り上げていきたいと考えています。

### ○事業計画から達成できたこと

#### ・35周年の機会に、あらためて、子どもや家族、会員、スタッフ、活動に関わる方々の声をカタチにする仕組みづくり

前年度から引き続き、各事業などからヒアリングや意見交換の機会、35周年を機会に想いの共有をする機会をわずかではありますが、実施することができました。また外部連携の事業が増えたことで地域の関係者の方からも多くの声を寄せていただくことができました。

#### ・地域組織の連携・社会からの要請も踏まえ、よりよい課題解決に取り組む

山科・醍醐地域全体を意識した連携づくりとしていましたが、これまで以上に小学校、中学校連携、会場としてお借りしていた施設などからの連携の申し出など地域の組織との新しいアクションの準備が進んでいます。取り組む方法は大きくかわりませんが、さらに地域のなかで「人間浴」ができる環境が増える準備が進んでいます。

#### ・基盤強化に向けた資源創出など運営課題解決のためのアクションづくり

資金については、昨年度移転後より次に向けて積み立てをはじめることや、経費の見直しなどを進めることによって、少し安定してきています。しかしスタッフ不足は解消しておらず、次年度はこの資金を活用しつつ、基盤整備をさらに進めていかないといけません。特にルールやマニュアルの再整備は遅れています。またスタッフ・職員・役員のスキルアップをはかるための研修も不十分であったため次年度方針を踏まえ取り組む必要がある。

#### ・40周年を見据えた5カ年計画

理事会、事務局、事業ヒアリングなどでの議論を踏まえ、今後の方針の概要となるものは作成するにいたりました。あくまで大きな方向性であり、ここから多くの方のご意見をいただき磨き上げていくとともに、細かな行動目標などの設定をする必要がある。

法人全体 <総会ならびに会議報告>

**【第 17 年度通常総会】**

日時・場所 2015 年 7 月 26 日（日） 10：00～12：00 アスニー山科 実習室

審議事項 第 1 号議案 議事録署名人選出の件

第 2 号議案 第 16 年度事業経過報告承認の件

第 3 号議案 第 16 年度事業活動決算承認の件

第 4 号議案 第 17 年度事業計画承認の件

第 5 号議案 第 17 年度事業活動予算承認の件

第 6 号議案 定款変更承認の件

第 7 号議案 第 17 年度・第 18 年度の役員選出の件

**【理事会】**

理事 11 人、監事 2 人で構成。

会 場 山科醍醐こどものひろば内、「こども生活支援センター」「げんきスポット 0-3」にて開催

開催日 2015 年 8 月 9 日(日)

2016 年 3 月 20 日(日) 5 月 15 日(日)

**【常任理事会】**

理事長、副理事長、常任理事、事務局長で構成。会のミッションに基づき、大きな方針を話し合う場として、毎回の審議を進めた。

会 場 山科醍醐こどものひろば内、「こども生活支援センター」にて開催。

開催日 2015 年 10 月 24 日(土) 12 月 27 日(日)

**【事務局会議】**

法人事務に関して概ね月 1 回程実施し、業務遂行にあたった。

## 第17年度 各事業報告

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	第7回山科醍醐こどもの創作劇公演 ※予算などは子どもが自ら創る体験事業の山科醍醐こどもの創作劇の項目参照	9月22日	京都市東部 文化会館	4	地域の子どもと大人 500人	—	—
子どもが自ら 創る体験 活動事業	Jr. キャンプ 小学生3年～中学3年対象の2泊3日のキャンプや年間を通じての野外体験活動を行う。	通年	地域一円	7	地域の子ども 40人	440	294
	団体設立周年事業 団体設立周年事業として、子どもが遊ぶことのできる事業を実施する。	9月22日	東部文化会館	100	地域の子どもと大人 500人	—	—
	わんぱくクラブ 幼児・低学年の子ども達が、舞台鑑賞や野外活動を実施する。	通年	地域一円	18	地域の子ども 登録者59人	800	991
	山科醍醐こどもの創作劇 小学生から大人までの参加者が創る創作劇の実施や、ワークショップを行う。 ※京都オムロン地域協力基金 ※地域力再生プロジェクト支援事業交付金	通年	京都市東部 文化会館・ 京都橋大学・社 会福祉法人同和 園他	10	地域の子どもと大人 のべ1000人	2,976 (助成金1,107)	2832 (助成金1101)
	町たんけん 地域を知り、その中の出会いから人と人がつながり、より良い地域になることを目指す。山科かるたや、ガイドブックを普及させ、有効活用できるように活動していく。 ※京都府文化力チャレンジ事業	通年	地域一円	13人 (スタッフ・ ボランティア・ 講師)	小学生14名 山科かるた冊子 (区内児童と先生 約6000人)ガイド ブック(区内新1年 1000人)	434	581 (助成金100)
子育てサ ポート事業	あそびっこクラブ 未就園児を持つ親と、その子ども達のサポート活動。地域の保育所やお寺を会場にして活動する。同窓会として親子で集う場を設ける。	通年	地域一円	3	家族12組	78	104
	げんきスポット0-3(ぜろさん) 未就園児を持つ母と、その子ども達のサポートを常設会場「げんきスポット」にて実施する。屋根のある公園を目指す。 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜日	げんきスポット	11	地域の子どもと大人 のべ6200人	4,974 (委託金4386)	4974 (委託金4386)
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、学習機会の少ない子ども、また経済的等の理由で体験活動の機会がない子どもへの個別(生活・学習・余暇)支援事業。	通年	地域一円	47人	地域の子ども: のべ411人	—	—
	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手な子どもや、学習機会の少ない子ども、また経済的等の理由で体験活動の機会がない子どもへの個別(生活・学習・余暇)支援事業。 ※京都地域創造基金事業指定助成事業	通年	地域一円	47人	のべ411人	助成事業4000 (助成金4000)	助成事業2000 (助成金2000)



	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	当初の予算額 (千円)	決算額 (千円)
ネットワーク づくり事業	分野連携ボランティアネットワーク 事業 当法人登録ボランティアと子ども 分野の活動団体とのネットワーク づくりを行う。	通年	-	-	-	-	-
	山科子育て応援団 社会福祉協議会を事務所として山 科で子育てサークルや子育て支 援をしている諸団体との交流を行 う。子育て支援サロンを開催する。	6月 7月 10月 12月 2月	社会福祉協議会 他	11	のべ100	-	-
	遊びのアウトリーチ事業 小学校の放課後や地域イベントに おいて、子どもと一緒に遊ぶこと のできるブースを実施した。 ※子ども夢基金による助成事業	通年	地域小学校 地域一円	5	のべ2094	532 (助成金420)	528 (助成金422)
	勸修中学校区 こどもの学びサ ポートプロジェクト 山科青少年活動センター、山科区 社会福祉協議会、勸修中学校等 連携事業	通年	勸修中学校区	3	-	-	-
	だいが中3勉強会 生活保護受給者中学生学習支援 プログラム。	通年	醍醐事務所	20人	7人	-	192
	みんなの家 フリースペースとして開放。 (主催:社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	こども生活支援セ ンター	2	-	-	-
	企業との連携 企業からのボランティア体験の受 け入れや、イベントでのボランティ ア呼びかけなど。	通年	-	2	-	-	-
	らんらんおでかけひろば 会員間の交流を図るためのお出 かけ企画。	通年	-	2	のべ25人	72	44
	ロータリークラブとの合同イベント	-	-	-	-	-	-
	新法人立ち上げ事業	通年	-	-	-	-	-